（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（熊本県立熊本北高等）学校　令和５年度（２０２３年度）学校評価表

１ 学校教育目標

人間教育に主眼をおき、知・徳・体の調和のとれた全人教育を実践し、将来社会において自身と誇りをもって生きていく有為な人材を育成する。

特に教師と生徒および生徒相互の人間的触れ合いを大切にし、厳しく徹底した教育活動を通して、「礼節と品位を重んじ、向上心に満ちた意欲的若人」の育成に努める。

２ 本年度の重点目標

（１）学級経営を基盤とした学校づくり
（２）生徒指導の充実
（３）探究学習の拡充と個別最適な学びの推進
（４）教育活動すべてを通して「生きる力」を育む
（５）働き方改革の推進と積極的な情報発信

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	授業の円滑な運営	時間割・日課の管理	授業時数の確保とバランスのよい日課の調整を行う。	年間行事予定をもとに、各学期間や定期考査間での調整を行う。	B	授業時間を確保するために、曜日変更等で柔軟に対応した。
	行事の調整	各種行事の調整	年間行事に基づき、各月行事を調整する。	毎週開催される運営委員会等を通じて、各部との連携を行う。	B	年度途中の急な変更に対しても、運営委員会等で調整を行うことで対応した。
	開かれた学校づくり	地域・保護者との連携	アフターコロナの初年度として行事見直しを進めながら、ＰＴＡや同窓会との連携、地域に根ざした活動をコロナ以前に近い状態で展開する。地域及び保護者の本校教育活動への理解を深めていただく。	駐車場を確保することでより多くの保護者が学校行事へ参加しやすくする。挨拶運動等育友会活動を通して地域、保護者の学校への理解と学校との連携を深める。育友会報の内容充実と配付先拡大、学校ＨＰでの情報発信など広報活動の強化、各種式典の適切な運営、地域ボランティア活動への積極的な参加要請を行う。	A	学校行事（入学式・卒業式）においてグラウンドを駐車場として活用した。挨拶運動では生徒が登校時危険に巻き込まれる可能性が高いことなどを知っていただくことが出来た。その他の活動においても学校、生徒の状況を保護者が知る機会となった。会報の配付先拡大には至らなかったが、デジタル配信の可能性について議論を持つことができた。ＨＰは行事ごとにブログの更新を行った。様々な学校行事をコロナ禍以前に戻すだけではなく、より良いものに変えていく視点で計画立案を行うことが出来た。長期休業前に地域のボランティアに積極的に参加することを促すプリントを配付した。

		近隣小・中学校との連携	地域・保護者との連携により、本校が取り組んでいるSSH事業の充実を図るとともに、活動の様子をオンラインや本校ＨＰ等を活用して活動を広報する。	中学生科学研究発表会を本校で開催する。中学校訪問時には、SSH NEWS（広報チラシ）や、課題研究報告書を配付するなどして、SSHの活動を中学校職員に積極的に広報する。また、ハイブリッド型発表会への参加を案内する。	A	中学生発表会を現地及びオンラインで開催した。近隣中学校だけでなく、県内各地から科学展上位の生徒を中心に申込みがあり、4校から9件の研究テーマについて発表があった。学校訪問の際には、SSH NEWS等を配付した。さらに、本校の SSH ハイブリッド型成果発表会を案内した。
	業務改善働き方改革	時間外業務従事時間の削減	時間外業務従事時間の平均が、昨年度を下回るようにする。 職員が余裕をもって業務に取り組めるようにし、生徒一人一人と向き合う時間を確保する。	各自の勤務状況を過年度と比較できる資料を配付し、時間外勤務に対する意識を啓発する。職員の業務状況の把握に努めるとともに、適宜声かけや面談を行う。 業務の平準化や校務分掌の見直し、行事の精選に取り組む。	B	時間外業務従事時間平均は、10 月まで前年度を上回るペースで推移していたが、定時退勤日の設定や代休・年休取得の推進を掲げて呼びかけを行った結果、11 月から前年度平均を下回るペースで１月まで改善傾向が見られた。また、行事の精選委員会を立ち上げ、来年度以降の行事精選を各分掌で取り組むことができた。
		職場環境の改善と職員の健康増進	職員間の情報共有が円滑に行われるシステムづくり、年休・代休が取得しやすい環境づくりを行う。	衛生委員会等において、職員にとって効率的かつ快適な職場環境について検討し、改善を図る。	B	今年度リフレッシュスペースを作るなど職場環境の改善が見られた。年休・代休取得については校長自ら積極的に声かけを行い、休暇取得率は増加した。
学力向上	授業力向上	授業改革	１人１台端末など ICT の活用等による授業改革を進める。	生徒による授業評価アンケートを年２回実施する。集計結果を踏まえて、各授業の改善を図る。	B	年２回のアンケートを実施し、各項目について、教科ごとの平均値を算出した。また、個人データを提供し、授業改善に役立ててもらった。
		公開授業の推進	各自３回以上の公開授業の実施と、2回以上の授業参観を行う。	スキルアップ期間を設け、公開授業を行い、教科の枠を越えて授業を参観し、授業力向上を図る。	A	スキルアップ期間を２回設け、2回目の公開授業を保護者にも案内することで参観者数が増えた。

	主体的に学ぶ姿勢を育てる	生徒の主体的に学ぶ姿勢を育てる授業の実践	ICT を活用した授業の研究及び思考力を問う考査問題の出題を推進する。	スキルアップ期間を利用した相互授業参観を推進する。教科会等で問題を検討しながら作問力の向上を図る。	B	スキルアップ期間等を利用しながら、積極的な意見交換が行われた。また、主に１、２学年では、観点別評価に対応した問題作成及び研究を行った。
		評価の改善	観点別学習状況の評価について前年度に定めた基準をもとに実践する。	授業の各場面で観点ごとに評価を行う。カリキュラムマネジメントの視点で評価結果を教科会等で分析し、生徒の学習改善や教師による指導の改善に生かす。	B	各教科で話し合いをしながら、観点別評価を実践した。主に１、２学年では、昨年度に観点別評価を行った先生の意見を取り入れながら、評価・分析を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かした。
キャリア教育(進路指導)	生徒の進路目標達成	個に応じた進路指導並びに教科指導の実践	きめ細かで正確な情報提供と習熟度に応じた教科指導、個々の進路に応じた個別指導の充実を推進する。	学年別の進路ガイダンスの実施と「北陵羅針盤」や業者資料を活用した計画的な進路学習を実施する。また Classi等で進路情報を配信し、その時々に即応した情報を的確に発信する。また、進路希望に応じて必要となる教科学力向上に向けた教育活動を構築する。	B	Classi 校内グループ機能を用いて学年別の進路講演動画を配信し、各種進路情報を定期的に保護者・生徒に告知した。さらに、学習機能を用いて各教科から課題を配信し、授業の復習や対外模擬試験の事前学習、また、生徒個々の学力に応じた自主学習に活用することができた。進路志望調査や模試結果の分析を職員で共有し、生徒へのフィードバックを行った。
	進路選択に対する意識の高揚	学校教育全般におけるキャリア教育的視点による指導の充実	生徒の発達段階に応じた進路関係行事の充実と教育活動全般におけるキャリア教育の実践を図る。進路指導に係るルーブリック評価の実施と活用を推進する。	職業別講演会など、進路意識向上に向けた行事の充実を図る。また、大学・学部・学科研究などを通して、具体的な進路選択に係る情報収集の方法を指導する。さらに、ルーブリック評価の実施によって目指す生徒像の共有化を図り、自己の進路に向けた学校生活の在り方を改善して	B	昨年までコロナ禍で制限のあったインターンシップの派遣先を増やし、オープンキャンパスへも積極的な参加を促した。早期から進路選択について考える契機とするため、1年生対象の職業別講演会の開催時期を秋から夏へ変更した。学校内外での諸活動をポートフォリオに残させることで自身の体験を進路と結びつける習慣付けを図った。年２回のルーブリック評価の結

				いくための標とする。		果を踏まえ、次年度に向けてより効果的な指導方法や時期を検討している。
		ＳＳＨ事業の推進	SSH事業活動を通じて身に付けた技術、知識や研究成果を進路決定に活用する。	課題研究をはじめとする各事業において大学等との連携を強め、研究の深化を図る。テーマ設定時に自己の在り方・生き方に関する考えを深め、その活動経験を生かした進路及び受験についての研究を進める。	A	国内外の大学、企業、公的機関から協力を得ている。課題研究においては大学、企業、公的機関との連携を図り、研究を深化させた。課題研究のテーマ設定時に、自己の在り方・生き方を深める活動を実施し、課題研究を進める中で、SSH 事業を通して育む資質・能力が向上した。また、それらの経験と研究した成果を活かした学校推薦型や総合型入試での合格者は高い水準を保っている。米国 Apple 社の大会での上位入賞者である卒業生による講話や、生徒の興味・関心に沿った講師を近隣大学等から招きサイエンスカフェとして座談会を実施した。
生徒指導	交通安全教育の充実	自転車安全利用五則に則した運転の向上	保護者、地域、諸機関、警察と連携した取組を実施し、指導の充実を図る。 また、交通委員会の活動の活性化を図る。 今年度は登校指導（交通指導）を計画的に行い交通安全の徹底を図る。	交通法規テストを年２回実施し９０％以上の正解率を目標に置く。地域、自動車学校、警察などと連携し交通講話等を実施する。また、日頃から交通委員による交通安全や交通マナーの向上の呼びかけ指導を行う。	B	本年度も入学後の１年生が近隣の自動車学校協力のもと交通安全教室を受講し、事故防止に向けて規範意識や交通ルールについて理解を深めた。また、交通委員会による自転車無施錠点検等も北辰週間にあわせ積極的に行った。今後は、交通事情を踏まえた自転車運転をもっと身に付けてもらいたい。
	健全な心の育成	社会性や対人関係能力の向上	基本的な生活習慣の確立、身だしなみ、あいさつ等のマナー向上を図る。	身だしなみ指導を充実させる。「北辰週間」で生徒会による呼びかけを実施する。「リーダー研修」等により、リーダーを育成する。生徒の自発	A	年間５回の北辰週間を通じて生徒会の中心に身だしなみやあいさつ運動、マナー向上に向けた取り組みを計画的に行うことができている。また、リーダー研修を行い

				的活動を促進する。		生徒会や部活動キャプテンのリーダーとしての資質向上に取り組むことができた。
人権教育の推進	推進の体制と研修の充実	人権教育の課題の共有化と人権教育推進協力体制の充実	年間３回の全職員に対する人権教育校内研修会を実施する。その中で、すべての学校生活において、人権教育が有機的に積極的に推進されるように働きかける。	部落差別（同和問題）をはじめとする様々な人権問題に関する動画やスライドを用いた職員研修会において研究協議を実施することで職員の意識の向上を図る。	B	６月に部落差別(同和問題）に関する動画「心の窓を拓いて」の視聴による研修を実施した。１１月に「部落差別事象の再発防止に関する研修資料」および「人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ）」による研修を実施した。２月は「性的指向･性自認に関する人権」資料による研修を実施する。
	人権意識を高めるための教育の充実	人権意識を高めるための教育及び他者への思いやりの心を育む教育の充実 教育の根幹に人権教育を据え生徒にしっかりと寄り添い、一人一人を大切にした教育の推進	生徒一人ひとりに対して、部落差別（同和問題）をはじめとした様々な差別解消に関わる取組の実践力を高め、態度に表すことができる豊かな人権感覚を涵養する教育の充実を図る。	人権教育LHRを年３回実施して「人権意識の涵養」が実現するプログラムの実践を図る。教育相談部との連携を深めて情報と課題の共有を図る。	B	人権教育に関する特設のＬＨＲを３回（３年生は２回）実施した。関連のスライド資料にも各学年独自の工夫がなされていて、前年度よりも内容を深めた取組であった。授業後の生徒の感想文にも人権意識の深化が認められた。
	命を大切にする心を育む指導	自己肯定感を高める人権教育活動の体系化を図る。	生徒一人ひとりが互いの存在を認め合うことができる自尊感情の高揚に資する人権教育の充実を図る。そのための言語環境を含む学習環境の整備を推進する。	命を大切にする心を育む指導の在り方の研究を深める。各領域における指導プログラムを構築する。人権作文の熟読および人権標語の制作によって生徒の人権感覚・言語感覚の深化を図る。	B	７月には「心のきずなを深める月間」の取組として、中学生全国大会入賞の人権作文（３本）の熟読を生徒・職員全員で実施した。関連して、人権標語の作成を全校生徒が取り組んだことで、人権に関する言語感覚が高まり、個々の人権意識の高揚に繋がった。
いじめの防止等	いじめを生まない人間関係づくり	安心して学校生活を送ることができる環境づくり	生徒間のコミュニケーション能力を高め、「いじり」や「からかい」等をさせない集団をつくる。	心身の変化を見逃すことなく家庭訪問や面談を実施し、迅速に対処する。その後も積極的に個人面談等を行う。行事等を通じて仲間づくりの機会を積極的につくる。	B	二者面談、三者面談を適宜行い、保護者との共通理解や生徒理解に努めた。 ＳＮＳの利用の仕方等について定期的な指導を行っていく必要がある。

		自己理解と自尊感情の構築	生徒間でお互いを尊重し、認め合う雰囲気や環境をいじめ防止の観点に立って構築する。	担任や教科担当者等が日ごろからクラスの雰囲気づくりや周囲への配慮について話をする。生徒会主催の「北辰週間」でのアンケートや職員研修等でクラスの状況や生徒の様子等についての情報共有を行う。	A	体育大会や北陵祭、クラスマッチ等の学校行事において、前年度以上にクラスの親睦を深める場面や互いに認め尊重し合う場面も多く、成果があった。
	いじめを許さない学校の雰囲気づくり	いじめの早期発見と事案に対する迅速かつ適切な対応	いじめを早期に発見する。日頃から生徒情報を正確に把握し、些細なことに対しても情報提供・交換を迅速に行う。 事案が発生した場合は迅速かつ適切な対応を行い、再発を防止する。	全職員が生徒の日々の様子を観察する。職員間の情報交換会やＳＣを通じて生徒情報を把握し、迅速に対応する。「心のアンケート」等を年に３回実施し、いじめの実態調査を把握し経過観察を継続して行う。 いじめ事案に対しては学校いじめ防止基本方針に基づき、迅速かつ的確に対応する。	B	昨年度より毎学期にいじめに関するアンケートを実施することができている。担任、学年等の関係部署と連携を図り、早期対応や面談、保護者に対する説明等も行っている。
地域連携(ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙなど)	地域と一体となった災害時の連携体制の構築	近隣地域や各関係機関との連携体制	避難訓練の計画や防災マニュアルの改善向上を図る。また防災備蓄品を適切に管理する。	防災マニュアルについて適宜意見交換を行う。北区役所防災担当者と連携し、運用について協議する。	B	初動訓練や避難所開設を通して、近隣地域及び関係諸機関と連携が出来た。防災マニュアルについての意見を県と市の指針に基づき行った。
	防災意識の高揚	災害に対して主体的に考え行動できる生徒の育成	災害に対して生徒が主体的に取り組む機会を提供する。	避難訓練やボランティア委員会の活動において、防災に関する取組を行う。	B	北消防署楠出張所の指導により避難の際の注意点や初期消火の訓練を行い、防災意識を高めた。
健康教育	健康で安全な生活を送る意識の醸成	生徒自ら心身の健康について意識を持つ	生徒の心身の成長段階に合わせた適切な講演会を実施する。	性教育講演会・薬物乱用防止教育講演会（全生徒・職員）を実施する。	A	性教育講演会では「ゆあさいどくまもと」の先生から性暴力の被害の重要性を学び、薬物乱用防止教育講演会では、第一薬科大学の先生から薬物乱用の恐ろしさを学ぶことができた。

		健康を維持するための情報提供	広報活動を通して啓発する。	保健委員および保健室からの「KUMAKITAHEALTH」（ほけん便り）等を通して、タイムリーな情報提供を行う。	A	「KUMAKITA HEALTH」において、生徒、職員ならびに保護者に対して健康教育の情報を豊富な話題とともに提供することができた。
	良質な教育環境の維持と環境教育の充実	教育環境及び施設に係る事故防止	危険箇所の早期発見、早期改善を行う。	全職員による年５回の安全点検を実施する。また、環境美化部を中心に感染症対策等の環境整備を行う。	B	今年度も計画的に安全点検を実施し、危険箇所の確認や修繕等を行うことができた。しかし現状の施設に限界があることや、清潔な環境を保つことが難しく課題となった。 感染症に関しては、新型コロナウイルス感染症が２類から５類へと移行し、新たな感染予防の中での取組が十分とはいえなかった。
		学習に適する教室等の整理整頓	教室内の美化、整理整頓及びゴミの分別の徹底。職員の清掃・ごみの分別の指導の徹底。	美化コンクールを年２回実施する。美化委員会、ECO委員会の活動を通じて、環境の充実・ECOの推進に努める。 毎日の掃除を通じて、ごみの分別の徹底を職員自ら行動で示す。	B	美化コンクールは計画通りに実施でき、生徒達の美化意識の向上を目指したが、掃除が実施できない日も多く定着には至らなかった。 ECO委員会の活動においては、プラスチックごみの収集の一環として、今年もコンタクトレンズケースの回収を行い、ごみの分別に対する意識高揚に繋がった。
特別支援教育	特別支援教育の推進	特別な支援を必要とする生徒の理解と支援	特別支援教育に関する知識と理解を深めるとともに、具体的支援方法等を学ぶ機会を設定する。	教職員に向けた校内研修を「生徒理解」「教育相談」「特別支援教育」の観点から企画・実施する。	B	４月に「生徒理解」９月に「ＳＣ講話」の職員研修を企画・実施した。職員のニーズに応じた話題や情報提供が課題である。
		具体的支援方法の検討と提供	個々の生徒の特性に合った支援方法を検討し、効果的な支援および合理的配慮を提供する。	定例ケース会議を開催し、支援・指導計画ならびに評価を行い、成果と課題を次年度へと引き継ぐ。年に３回以上のケース会議を実施する。	A	５月にシート作成、１月、２月に評価のためのケース会議を開催した。ＳＣの助言を頂きながら、担任・保健室・教育相談部で情報共有し支援に活かすことができた。大学への引き継ぎ等も確実に行う。

４ 学校関係者評価

本校が素晴らしい取組をされていることが改めてわかった。本校の特色であるＳＳＨと国際交流をさらに伸ばして生徒が「卒業するときに、北高に入学してよかった」と自信と誇りを持てるような取組を継続していただきたい。

学校、生徒、保護者と多面的に評価されており、振り返りを行うことで課題を明確に改善されているとますます活気ある学校になるのではないか。企業ではエンゲージメントを高めることが求められている。エンゲージメントの高い上司のいる部署は、部下のエンゲージメントも高い。学校も先生方のエンゲージメントを高めていただくことで、生徒の幸福度をさらに高めていただきたい。ワクワクする体験・経験からの学びは人間形成に大きいと思う。

年々多忙となる学校現場で、授業力向上への取り組みが徹底されている。身だしなみの指導の充実において、生徒会を中心とした自治的、積極的な取組は素晴らしい。中学校でも生徒自らが発信し行動する取組を進めたい。

ビジネスシーンでのeメールの送り方など、社会との関わり方も指導していただきたい。英語科を持つ学校として、国際交流を推し進めていただきたい。

全体的に目標が具体化されておらず、評価しづらいように見える。目標においてSMART（特にSpecific：具体的に、Measurable：測定可能な）を意識した文言にしてみたらどうか。A評価について、量的に達成できたものは、目標を質的に変換してはどうか。改善を目的とした評価であるべきだと思う。

５ 総合評価

評価項目（小項目：全２９項目）の評価は、Ａ：９項目、Ｂ：２０項目という結果であった。新型コロナウイルス感染症が５類に変わり、教師や生徒同士のコミュニケーションを取る機会は増え、活気が戻ってきた反面、交通安全や感染症対策など課題が残る場面も見られた。別途実施した学校評価アンケートでは、「教師はわかりやすい授業を工夫している」の質問に「そう思う・どちらかと言えばそう思う」の生徒の回答が９５．０％と昨年度（９０．７％）を上回る評価となり、授業の充実につながっている。

保護者アンケートでは、概ね肯定的な意見をいただいており、特に「生徒の悩みや相談に親身になって応じている」（R3：86.1％⇒R4:86.4％⇒R5:87.3％）と「保護者とのコミュニケーションを大切にしている」（R3：77％⇒R4:78％⇒R5:81％）の項目において年々評価が上がっており、学校との信頼関係の構築ができていると考える。

一方で、学校活動や施設の整備・改善などの情報発信が欲しいとの意見も多く、ホームページの改善や保護者に対する学校の見える化など情報発信の充実が課題である。

６ 次年度への課題・改善方策

（１）更なる授業改善の推進

１人１台端末の活用がさらに進み、各教科の特性を踏まえながら各自で工夫したＩＣＴ活用し、生徒の個別最適な学びの充実を図った。一方で生徒の学びの自走化や学力保証においては課題があり、さらに職員の授業の充実が求められる。日々の実践が学力に結びつくような教師の授業研究が必要である。

（２）探究活動の深化とキャリア教育の連携による進路指導体制の充実

ＳＳＨ事業として、アントレプレナーシップ教育や課題研究で国内外の大学、企業、公的機関と連携し、数々の成果をあげてきた。今後さらに課題研究とキャリア意識とが結びつく仕掛けを構築し、生徒自身があり方・生き方を真剣に考える資質能力を育みたい。自己実現に向けて努力する生徒が多く生まれ、その生徒のサポートをすべての職員ができる体制を強固なものにしていく必要がある。

（３）各科の魅力創造と発信力強化

普通科、理数科、英語科のそれぞれの魅力を際立たせ、さらに本校ならでは３科融合的なSTEAM教育に繋げたい。また、中学生、地域に向けて本校の取組をより知ってもらうためホームページなどで情報発信の仕方も改善する。

（４）働き方改革の推進

教育課程において単位数を減らした他、ノー残業デーの設定、代休の取得推進など多くの取組を実施してきた。それらの効果で平日の時間外勤務が１時間ほど減少したが、部活動の活性化により休日の時間外勤務が２時間超増加した。今後は、さらなる取組の他に部活動運営方針を見直す必要がある。